

# 町長の一言



## 菜の花の頃

菜の花の花盛りの頃の暖かい日の夕暮れ時の那珂川は、以前は毛針流し釣りの人が竿を振っている姿を見受けましたが、現在は禁漁期間が守られているらしく、ほとんど見かけなくなりました。この時期はちょうど鮭子が下り、鮎が遡上する時期でもあります。

今那珂川では2つの大きな事業が進められています。1つは、那珂川沿岸農業水利事業で、沿岸8市町村、5500haの水田・畑地へ、安定的に農業用水を供給するための事業で、那珂川本流からの取水と御前山ダムからの取水と御前山ダムの工事が行われており、相川に築堤されるダムの湛水が始まると、ダムに棲む魚の種類等も変わってくるのかなと思っています。

またもう一方、那珂川から霞ヶ浦への導水事業が進められています。これは水戸市渡里地内から霞ヶ浦までの43km区間をトンネルで水を送り、途中桜川、千波湖へも水を落とし、浄化を図り、霞ヶ浦では那珂川からの導水により、湖水の滞留時間を短縮し、水質浄化

を進めるものでありますが、計画策定から工事に着手して、20年以上も経過しています。那珂川と霞ヶ浦の水が往來する事により、魚類の生態系に変化をもたらすのではないかと異論を唱えている人もいます。

工事はトンネル掘削なので進捗状況はあまり目に見えませんが、かなり進んでおり、莫大な予算もすでに投入しているのです。私は当面早く桜川機場までを整備して、桜川、千波湖の浄化を進めていくことが、目に見えた事業効果にもなり、水はまた那珂川に戻るので生態系の問題の心配もないのではと思っています。

城里町地内の水は最終的にはすべて那珂川へ流入するので、関心をもちながら事業の推移を見ていきたいと思っています。

**訂正**  
広報しろさと4月号16頁、町長の一言(vol.18)の内容の一部誤りがありました。お詫びして訂正します。  
・16行目「ガラス固体化」  
↓「ガラス固化体」  
・27行目「地下面積1000ha」  
↓「地下面積10000ha」

## 文芸しろさと

### 俳句



ばっちり胡瓜の花の開きけり 飯田 勇一  
春耕や小鳥翔び立つ雨後の畑 山崎 正行  
子と遊ぶシーソーの上桜咲く 高橋 芦江  
春休み観覧車より海見つけ 竹内 幸子  
竹の節青々とあり野蒜摘む 森 静江  
不揃ひの手作り菜し逢餅 仲田 まちゑ  
皿よりも大き伊勢海老桜の夜 鯉 潤 寿美恵  
春暁に覚め心音の確かなり 阿久津 あい子  
夢二画の眸の潤み夕桜 今 瀬 多代美  
ぶらんこの順番を待ち笑ひ声 いそべ きよ  
たんぼの一面の土手児等のもの 飯村 愛子  
桜咲き弁天橋を渡り初め 飯村 昭子  
物干しの倒れて払ひ春の土 田所 厚子  
花曇あちらこちらと鳩水輪 瀬谷 博子  
馬鈴薯や植える手始め二つ切り 岩 下 金司  
誇らしげ黄色く咲いた水仙花 富田 欽子

### 短歌



花散らし木々の芽起こし降る雨にわが身の裡も濡らされてゆく 波 辺 千紗子

診察所にて名医と言われし先生が坏の地にて開業すつれし 秋 山 愛子  
古び来し雛人形にしみじみと向き合ひてをり我も老いあひて 大 森 久子  
老い我に停年は無く鎌握りペーンと針持ち残生染しむ 佐 川 あや  
一筆の添へ書き賜びし温かき心の賀状を繰り返し読む 杉山 みちこ  
栗山の落葉を飛ばばまん丸のフキの莖出つ又春来たり 宮 本 ふみ江  
ひよどり枯れ連鉢のたまり水をゆつくり呑みゆく冬のわが庭 所 美恵子  
病癒え六地藏尊のお帽子替えて慈悲のほしりみさらに深し 青 柳 京子  
くるくるとなわ跳びをする孫娘髪ゆきゆきと揺らし百七回 山 形 式 妙  
春がすみじやれ合いており春とびバスの窓より過ぎゆくを惜しむ 仲 田 こう  
城里に合併なりし記念樹のしだれ桜が咲き初めにける 岩 下 通子  
里山に咲くかたくりの花の群れその見事に暫したたずむ 富 田 多蔵  
雨降りて山里の桜まだつぼみ花の開きと暖かさ待つのみ 岩 下 美知野  
金婚の夢をたくして記念樹に植えた紅梅今盛りなり 阿良山 ウメノ  
ふる里に彼岸参りの墓の前なつかし恋しなりし日の父母 鶴 田 すが  
さきかしら大きな羽根を逆立てて小鳥かばうか風の強きに 市川 義子

### 川柳



ゆきずりの道べに摘みし一つかみの芹の香おりここ春立つ 山口 栄  
老いてなおひそかにもゆる恋心留守番電話繰り返し聞く 山 本 隆 莊  
一目見るや吾をば指して気が強しと言いたる人あり己かえりむる 薄 井 ひろ  
夢二描く「慕情の女」に魅せられて大正のロマンに浸りし記念館 枝 不 美  
灰色の雲に小さきはころびの出て来て澄める青空のぞく 片 見 和 枝  
もぐらよけの風車からからとよくまわるもぐらにも此の音聞こえてるや 川 上 千代子  
帰りゆく息と見上げた夜半の空白梅咲き満ち満ち満ち 島 愛子  
眼の届く限り咲きある水仙の海浜公園夫と賞でゆく 多 田 志保子  
三月もなかなばと言うにこの寒さ昨日も今日も花冷えの雨 坪 井 きよ子  
病棟の窓より日ごと見る夕日 今日筑波の嶺にかららず 萩 谷 登喜子  
夕暮れに一番星が輝くと紅葉なす手を指しのべる孫 和 知 美智子  
枯葉の下より手をのべてカタクリは約束違えず芽を出しくれぬ 富 田 佐智子

那珂川の桂の魚道アユおどる 中 島 芳 春